

1
拝見

相も度々の内情は筆に接しなくて何とも言ひ出
頼母子さまを憐れみたりとて幾度となく
讀み返し心行止に所意見を拝聴給
せられたで乍短かに今の私の心持を仰知せり
るに於ては、丁度早一週を計り前
のうちに去りませぬ物ね歸家一たのめ、物ね
四日前を次里にて中村さんの居られた所に
地方迄の視察を終りしむた。びっぴー
正和の墓から六十哩計りで、よびヤスの同
題で電車バスに乗る便を借りしむた。是れ初
にハニビールと言ふさい町に於て新しい友人
を坂本君(福留君)と尋ねれば行かす
たが判りませんで、たから土地の人吉岡木
さんの宛に一便の旨を頼つて土地の諸君
聞きませ、たそして翌日は七八哩計り
翌計りの中村さんの本宅を訪ね

ありたしーて二宿さーて頂て又前に視
察したる所のあり物のまから凡三半哩
スエスフリードに行て今度はトナト
作るべく借地する心持で白人及土地
の知人の友人(日本)の案内で視察路
まゝたしーて六十英里町十二百其位
家はつ引強て来る例少のから今一つ小さく
健く農具は先方のつうりりー及不ふ
りーを借る馬二頭と古のから大底を改る
給水は何時でも出来る土地は甚う地方では
上等場所は(百尺位)橋(河)辺道は分
の工ーから畑(凡一哩)上等で在り町
からは六(半)斗ありニ日本人家族のま
から凡三半哩物の現任地からニ半哩(米
候は大差なかりかゝる過の作物は大根
ホテーとピーンズ、アルファラフ以外の一
類勿論トナト尚ほ女子校は一哩の
ハイ山工ー(バス)来る(学校の)高
キヤシのパーナントは大底りうつ拂
です。高(一)つ所見す(大)家(満

是出来ませんとした

以上が種々視察の結果であつて如何に
すべからざるを帰して考察を廻らして

見せしむるにトナート(グリーニク)

を主としてたう何れも移轉せたくても

現住所で出来ると言ふるを認め

せしむるに今では移轉せたくも

し居りある原因はパーキニゼードが

先市と物うまると申向にあるる土地も

場所の依りぞすか概して此地うかまいる

故にポテートが多く出来ると物の主人が物等

の移轉を喜ばぬる子供が慣れた以て

校に居り居る此の地をトナート作

るに付倉社のOKを得た甲一理程

は存出の居られた山川弘さん物の

トナート耕作上の調査をお話したから

来年と土着の見悟で五美町

のトメートを作つて書外に働かぬ

居る覚悟をされたる中、尚ほ一葉町

評りおれり便利が付くまかぬからせ

り^本お方に住らるゝトメートのプライス

は昨年十五坪に比しつうキ一五十五坪

迄なつたゝ確定そ一と本年は未

だ高く^近近の内にカレワラキス^とと言ふ

居るゝ一坪であり^中中より^最最も未だ

クワフアの年約頭敷を^確定め居るや

恥^心開かあり^すす^一近の内に^調下^す一

山川さんの証に依り^すす^と近所に^新新

家應用に^住つてあるのか^近近^中中^のの^好好

出来て居てグリーン^とたでなく^ララ^フフ

トメーとを^譯譯^しし^世世^望望^つつ^たと^申申^すす^一た

尚ほトメー^と由は組合で他洲に^註註^文文

すゝと^うう^いい^すす^一カインドは^ヒヒ^アア^ソソ

未^水水^かか^らら^つつ^りり^レ即ち中村さん^のの^六六^面面^はは

働^くく^とそれはキヤナリ^とあり^しし^物物^と果物

ナ^ロロ^ンン^野野^菜菜^類類^と多^量量^でで^すす^一お^のの^好好^{都合}都合

た^けけ^れれ^とキ^と家^かか^なな^いいで^五五^生生^すす^と

ち^水水^はは^言言^はは^ちち^なな^るる^一と思^はは^すす^がが^ググ^リリ
ーントメートの^概概^念念^がが^なな^い土地は^若若^しし
中村さんかキヤ^ンン^ププ^にに^行行^かか^れれ^とす^水水^はは

彼の人のまゝ日本人の所有ですから借水
 と思ひます中村さんは磁^{ホタテ}磁^{ホタテ}年一六
 英町許り借りて居ります。たゞしく
 ちかつたと言ひます。磁^{ホタテ}大根の平約
 噸數は十六噸と同たと思ひます。で
 物と一は未だ色々な借物を作つて
 見ると氣にたりません。たゞホタテ
 を給ふとしておれり。主人の作の様は
 三三俵近く出れば是れも有利であ
 ります。が大根には此の地方許り成績
 をあげて居ります。セウリを中村
 さんの地方で三四五英町位いゝ作つて
 居る所は。たゞお尋ね三四五リシ
 トのシラウツの作り方を思ひます。た
 だ結果結前には借り上げてテウ牛の中
 に三本並位に入水と頭から土を蓋めて
 保存します。からストーヤより有利
 であります。来年の三月迄でも持
 びよ。物の試作の三四リシートウセウ
 もその法式で平氣と持て居ります。

岩波の地でハーキングして居るのを見たり
左がニターズとニの平、三ターズとレでレリス
クしーワに板込（板屋）でレ尤もセウリシレワ
由句論シターズクしーとも中と手に入ら
ぬウケる一びーた
で大體に於て以上ク称な次第ありす
か物に貴賤ありや争儀の上ならず者さして
世間つて遠慮なきし意見者のいさよこ
負くちう矢張り争暫く魂志は二五年
現状の儘との方が正一の行方前であら
一かとも思ひますをも精神的堪へ難い
内苦痛があるい生ですれどすそ一
夫れは大赤の同胞不夫れですかう偏一
も一思ひ切り何お驚つたるべきをせり
たるとすれは思ひ二さ元大証此か他い
同伴者として信頼の出来たる若い者と
三四人先に出たさうて居生するなう
少一早十日に歸くなら三月頃からとい
て今年か或は再来年ク方計を
定めらるゝ又一つの将来への希望を
思ひ出すなり若かりに勤専（勤）に親
察を要し出たう夫れは五月始めか
理想的地で一よ仕事は地方にイリ色と
あり必ず一ハ一ドウオクに定つて居
てや四人者は其の時期には田の運水

すゝ子か出来たのでありませう

高は排り氣令です此の地方から

にかけては本人土著者か大令に居る一

又今度入りつゝありませう心配は

ないのでありませう孫に依年のね獲

期に人不足の姿をマヤゴの日本人が来

た後に免々角糞上の出来た様子は

けですから至極つと好くたると生と思ひ

ませう

それから自動車ですか豊後業始めると

同時に買や仕事に迫つて来ませうか今う話

ではントトローキアに行けば望み通り有

ることです現に物に所は津本を中

大根を五人とセマで佐るべし五人若

い連中が来て居りませうか何でいれ

再拂つたとかで好いのを一つ買つて来ませ

一た連中ユキのマヤゴから出たのです

又ギヤスの方も色々ありませう父

才買つると思ひませうが保諸の

限りにあらずませう戦争は私

の見るとこちらでは大層な待文戦
と思ひませうで盛ちたい限り積極
的活動すゝたとい思ひませう

以上の様子を愚考のもとに四三二さんかトノ
 ーと作りに作去にたると似相心ーとを
 世調を下げめ之置き申すから此の子
 紙の作は事には去来した年く作願
 申上り申す

流石に作し正方の名作を感嘆久
 ーと返り申す左作しは以下拙い
 のを誤り申すから遠慮をせしめ批
 判を願ひ申す

初日さす波打ぎわに糸たれて
 いわーをいさにはばちを編みけり

子をとて帰る風等にほたん雲
 子と明かに柳が青ーとー

学をして帰る學兒の雪路も
足とりかろー母をしいたい

なこやかに降りつる初日のぼたん雪
吉御惚かておまじりあつた

立見神の初日は何のまゝかはらぬと
今の物も焚火のかわりにしを想ふ

君が信むかり定に初日輝けと

おれは祈りつつかしうたれつと

四十二年一月九日

川崎

著者おしき

冊子

外中同録